薬師ヶ根遺跡

遺構写真 写真図版 01 ～ 15
遺物写真 写真図版 16 ～ 28

薬師ヶ根遺跡 06 区調査区とその南東方向遠景（北西から）。眼前は境川氾濫原の水田地帯であるが、遺跡がある丘陵部先端から刈谷市方向に、現在の集落地がのる微高地が帯状に続いている。手前は尾張国域、向こう側が三河国域である。

薬師ヶ根遺跡遠景（南から）。沓掛小学校の校舎から右側の住宅地一帯が遺跡地である。

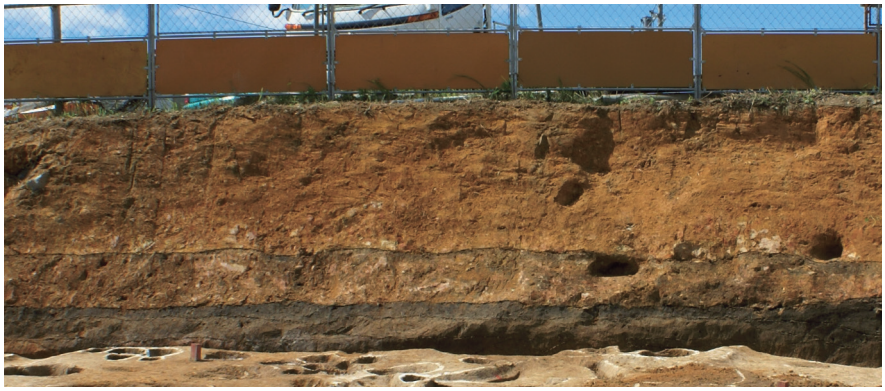
遺跡から西方遠景（東から）。名古屋市方面。

遺跡から北方遠景（南から）。東郷町・みよし市方面。

遺跡から東方遠景（西から）。手前の草地が調査前の 07 区。

遺跡から南方遠景（北から）。遺跡は丘陵尾根筋上に立地する。

06 区調査前の状況（北から）。


06 区調査区西壁土層断面（北東から）。調査前の盛土下に旧耕作土と遺構面があった。

06 区溝 034SD 検出状況（東から）

06 区溝 034SD 完掘状況（南西から）

06 区調査区西壁土層断面（北端付近、北から）

【上】06 区北端付近の攪乱（南東から）
【左】06 区調査区北壁土層断面（東から）。手前は段切り状に削平されていて谷地形の斜面は滅失していた。丘陵上も削平が進んでいたが、表土直下で溝 299SD などが検出された（写真は検出前）。

06 区南半枢要部遺構検出状況（西から）。この段階では比較的新しい凹地などが多かったが、その下位から多数のピットが検出された。

06 区遺構掘削作業（北西から）。調査区南端のベルト付近を掘り下げ、竪穴状遺構などを検出中。遺構面が南から北へ傾斜しているが、これがもとの地形である。手前の溝 155SD などは斜面を段切りした痕跡であろう。

06 区谷地形 186SX の南斜面完掘状況（北西から）。古代中心の廃棄層。

06 区調査区南壁土層断面（北から）。落ち込みが 186SX に相当。

06 北区谷地形 186SX 掘削状況。全体に撹乱を受けていたが、その下に黒色の廃棄層（包含層）が残存。

【上】06 北区調査区南壁土層断面（西から）。南西側からの緩やかな斜面の埋没谷地形である。地山である黄褐色粘土層上の黒色土層が古代～中世の廃棄層である。基盤層の下部は、灰色と白色の粘土層が交互にあらわれた下に腐植物の多い暗褐色粘土層がある。
【左】06 北区北端での掘削状況（北西から）。壁面は【上】写真の続きであるが、北側へ緩やかに上昇していることから、谷の北端に近づいていることがわかる。

06 北区谷地形廃棄層完掘状況（北東から）。

06 北区調査区南壁土層断面（部分）。

06 区遺構全景（北東から）。南半部にピットの集中がみられる。南端に竪穴状遺構や溝、北半部にも溝がある。

06 区南半部全景（北から）。ピットは深さ 30cm 以上のものが多く、柱穴に相当すると考えられる。写真左側の傾斜面は谷地形 186SX の北側上端である。廃棄状態の須恵器が多数出土した。

06 区枢要部から 06 北区南部の全景（北から）。

06 区井戸 029SE 上部と溝 187SD の完掘状況（北から）。187SD は屈曲して廃棄層 186SX の下へ潜り込んでいく。

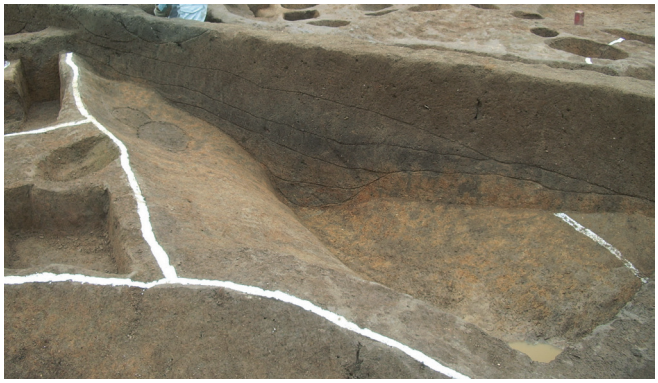
06 区井戸 029SE 断ち割り土層断面（北西から）。埋土中からは顕著な遺物が出土しなかった。

06 区北西部全景（南東から）。手前は撹乱。

【上】06 区全景（北西から）。
【下】06 区井戸 029SE 上部の完掘状況。顕著な遺物は南端上端付近で出土した須恵器捏鉢のみであった。

06 区井戸 029SE 断ち割り完掘状況。上部は漏斗状で下部は円筒形の素掘りである。底は粘土層下の湧水のある砂礫層に達している。

06 区溝 187SD 土層断面（北から）。



06 区溝 187SD ベルト 01 土層断面（北東から）。

06 区ベルト 01 土層断面（北東から）。右端が谷地形 186SX 廃棄層に相当。

06 竪穴状遺構 184SB・185SX 土層断面（南から）。

【上・下】06 区竪穴状遺構 184SB・185SX の作業状況。
【中】184SB 床面炭化物層サンプリング作業。

【上】06 竪穴状遺構 184SB 完掘・185SX 遺物出土状況（北東から）。
【右】同 185SB 完掘状況（北東から）。

06 区溝 134SD 完掘状況（北東から）。

06 区溝 279SD 完掘状況（東から）。

06 区北半部溝 279SD・299SD 完掘状況（東から）。

06 区溝 279SD 土層断面（東から）。

06 区溝 299SD 完掘状況（東から）。

06 区溝 299SD 調査区北壁土層断面（南から）。

06 区溝 299SD 屈曲部溜井状遺構（北から）。

06 区溝 299SD ベルト土層断面（東から）。

06 区 119SX 山茶碗出土状況（南から）。

06 区 285SK 中世土器出土状況（南から）。

06 区 044SK 断ち割り土層断面。

06 区 221SK 検出状況。

06 区 221SK 断ち割り土層断面。

06 区 126SK 断ち割り土層断面。

06 区 274SK 検出状況。

06 区 274SK 断ち割り土層断面。

06 区 207SK 断ち割り土層断面。

06 区枢要部段切り状遺構（256SX ほか）完掘状況（北東から）。谷地形 186SX にかかる傾斜面にて竪穴建物を想定して検出した遺構群。

07 区南西隅部全景（東から）。

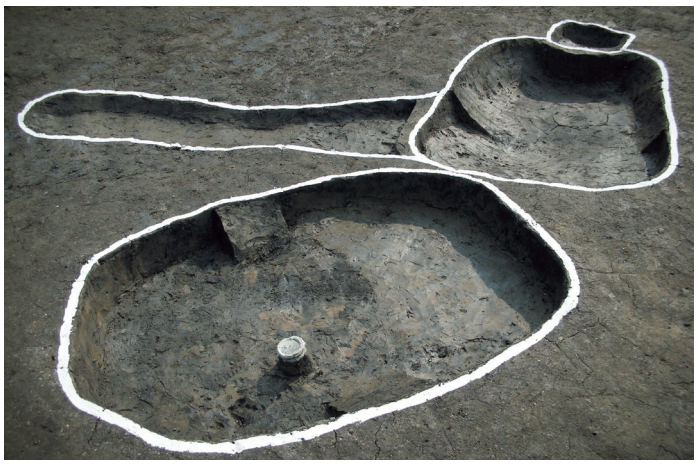
07 区北半部谷地形 001SX 完掘状況（南から）。

07 区北半部谷地形 001SX 掘削作業（南西から）。

07 区北半部谷地形 001SX 上層掘削作業。粗粒砂層直上付近で須恵器～山茶碗が大量に出土。

07 区北半部谷地形 001SX 上層須恵器出土状況。

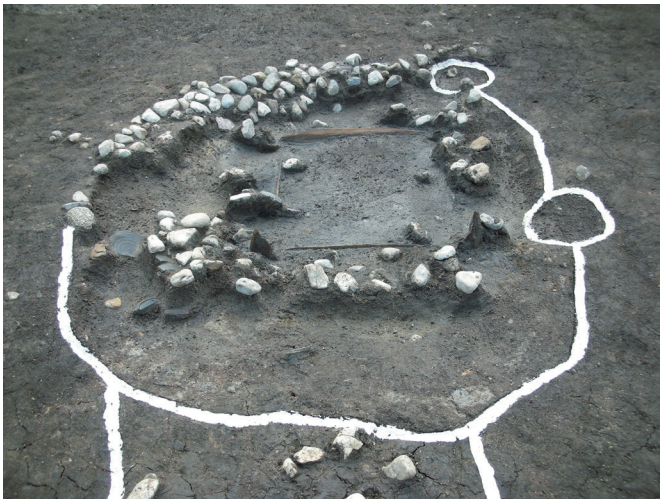
07 区南半部検 1 面土坑 004SK ～ 007SK 検出状況（北から）。


07 区南半部検 1 面土坑 004SK ～ 007SK 完掘状況（南から）。

07 区検 1 面井戸 002SE 検出状況。凹地状の井戸とその周辺には谷地形 001SX 上層の粘土層が入り込んでいる。

【上・下】07 区南半部検 1 面井戸 002SE 検出時の周囲での遺物出土状況。
　埋没した井戸の上を覆う粗粒砂混じりの粘土層堆積は谷地形 001SX 上層に相当し、ここからは須恵器～山茶碗が出土している。

07 区検 1 面井戸 002SE 井戸側検出作業（南から）。



07 区検 1 面井戸 002SE 井戸側検出状況（南東から）。

07 区検 1 面井戸 002SE 井戸側検出状況および溝 003SD 完掘状況。

【左】北東から。浅い溝 003SD は 002SE からの排水を目的につくられたものと考えられる。

【下】北西から。井戸 002SE から溝 003SD に向かって敷設された白色円礫が流出している。

07 区井戸 002SE 井戸側全景（北東から、断ち割り調査時）。

07 区 002SE 井戸側下層の自然堆積層（東から）。

07 区南井戸 002SE 井戸側全景（北東横から）。

07 区井戸 002SE 井戸側および土層断面（北から）。

07 区井戸 002SE 井戸側上部の状況（北西から）。4 本の桟で内側から支えられていたものと考えられる。

【上】07 区井戸 002SE 井戸側の測量作業（北から）。土層断面とともに井戸側の側面図を作成した。【下】井戸 002SE 井戸側内部の掘削作業（東から）。掘削作業は井戸側材を取り上げ、新たに検出された材を測量しながらの慎重な工程となった。

井戸 002SE 井戸側北東隅柱（東から）。

井戸 002SE 井戸側北西隅柱（北から）。

井戸 002SE 井戸側南西隅柱（北東から）。

【上】井戸 002SE 井戸側内部の土層断面。材外側の堆積土が隙間から流れ込み、その上に砂礫の少ない灰色粘土、そして炭化物を含む粘土が堆積している。
【左】井戸側内部出土した材の一部。隙間から流入した砂礫混じり粘土層の直上にあり、実質的井戸の底面に位置。
【右】井戸側の北西面側板。建築部材転用材の南側に小材を補足している。

07 区井戸 002SE 井戸側内完掘状況（北東から）

07 区井戸 002SE 井戸側南西面側板と隅柱および桟の出土状況

【上】07 区井戸 002SE 掘り方完掘状況（断ち割り調査時、南東から）。
【右上】002SE 西縁貼付円礫群（北西から）。
【右中】002SE 西縁貼付円礫群の土層断面。礫を覆っているのは砂礫混じりの粘土で谷地形 001SX 上層最下部の状況に相当する。
【右下】002SE 掘り方完掘状況（北東から）。隅柱の補足で立てられた材。
【下】002SE 西縁貼付円礫群。色調や大きさが揃えられている。

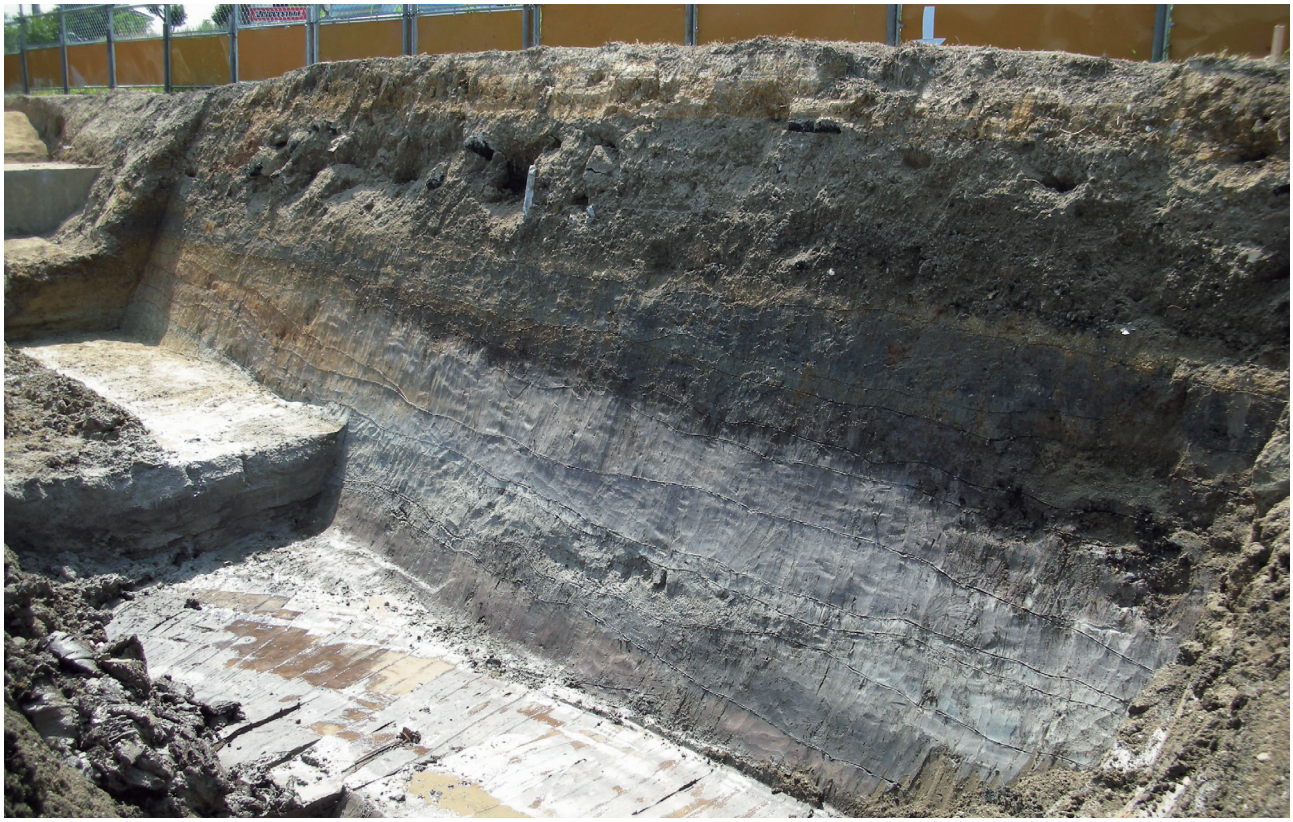
【上】07 区南半部検２面遺構完掘状況（南から）。奥のシート下が同区北半部で、谷地形 001SX の最下部に相当する。
【左】07 区南半部検２面遺構完掘状況（井戸 002SE を除く、北東から）。丘陵から北側谷地形への落ち際である。

07 区検２面土坑 017SK 柱根出土状況（西から）。

07 区検２面完掘状況（東から）。基盤層地形の傾斜。

07 区検２面調査区北壁谷地形 001SX 上・下層断面（南から）。

07 区検２面全景および 06 区調査終了状況（南東から）。



07 区南半部調査区北壁土層断面全景（調査終了時深掘り実施、東から）

07 区南半部調査区北壁土層断面（その 1、南東から）

07 区南半部調査区北壁土層断面（その 2、南東から）

【上】07 区北半部調査区北壁土層断面（最下層が基盤層、その上 2 層が谷地形 001SX に相当する）。
【右】07 区南半部調査区北壁からみた 06 区方向遠景（南東から、ガードレールにそって 06 北区の土層断面を記録した）。

1

2

5

6

8

10

11

12

13

15

16

18

19

24

29

36

38

39

41

42

43

45

47

48

51

52

53

55

56

59

63

66

80

81

82

87

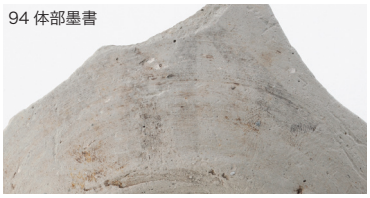
89

91

92 底面墨書

93 体部墨書

91 底面墨書


94 体部墨書

95 底面墨書

96

98 底面刻書

99

96 底面墨書

101 底面刻書

99 底面刻書

102 底面刻書

107

108

113

114

121

123

124

126

127

136

139

140

141

143

147

149

160

163

175

171

179 底面墨書

180

178

180
内面刻書

180
外面刻書

182

184

186

187

188

189

190

209

213

221

223

224

225

227

228

236

238

239

240

241

243

244

245

246

247

249

250

251

252

253

254

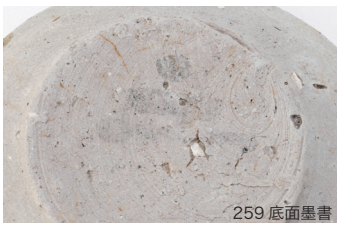
256

259

261

258 底面墨書

260 底面墨書


259 底面墨書

263

265

270

273 凸面

273 凹面

276

278

281

277

278 裏面

281
底面刻書

280

283

284

285

286

287

288

290

291

289

293

294

295

296

303

299

306

310

319

314

315

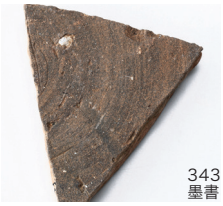
320

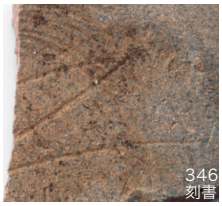
335

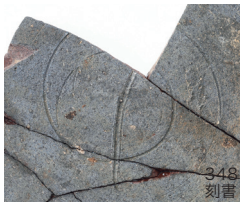
337

339

342


343
墨書


346
刻書


348
刻書

349
刻書

354

355

356

357

359

361

362

363

368

369

371

372

380

382

383

384

388

389

391

392

393

394

395

397

402

394 逆位

406

408

409

410

411

412

413

414

415

425

418

426

427

428

429

432

439

440

444

450

453

455

458

462

466

468

470

472

474

475

478

481

499

507

482

502

505

457

511

512

518

519

521

528

532

533

542

555

556

557

558

566

562

565

571

572

573

576

568

577

578

583

584

586

601

603

607

620

621

609

625

627

634

637

639

641

654

662

663

671

672

674

678

679

682

688

689

690

692

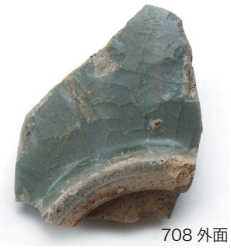
694

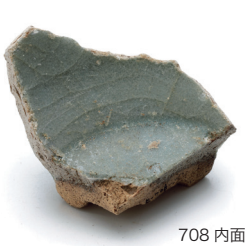
695

700

702

703


708 外面


708 内面

709

711

712

714

713 底面刻書
713
内面刻書

717

719

729

730

728 凸面

728 凹面

731

733

732

734

735

W-1

W-2

W-3

W-4

W-7

W-9

W-15

W-16

W-17

W-18

W-23

W-24

W-29

W-31

W-33

S-14

S-13

S-15　S-16

S-12

S-17

S-5

S-5

S-4

S-4

S-8

S-6

S-9

S-2

S-1

S-3

S-7

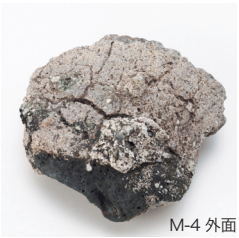
S-10

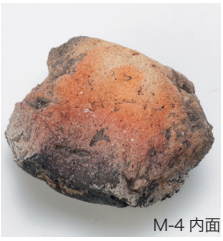
S-11

M-1

M-2

M-3


M-4 外面


M-4 内面

M-5

M-6

M-7

M-8

M-4 拡大

M-10

M-11

M-13

M-15

M-14

赤色塊

ふりがな	やくしがねいせき
書　　名	薬師ヶ根遺跡
副　書　名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第197集
編著者名	永井邦仁 鬼頭剛 (株)パレオ・ラボ年代測定分析チーム 小林克也
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2015年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
やくしがね 薬師ヶ根 いせき 遺跡	あいちけん とよあけし 愛知県豊明市 くつかけちょう やくしがね 沓掛町薬師ヶ根	23229	120027	35度 04分 00秒	137度 01分 46秒	2006.7.24～ 2006.10.10、 2007.5.1～ 2007.6.29	1,400	県道春木 沓掛線 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師ヶ根遺跡	集落	後期旧石器時代 奈良時代後期～平安時代 鎌倉時代～江戸時代	遺構なし 掘立柱建物、溝、土器集積、井戸 溝、	ナイフ形石器、剥片 須恵器、棒ツク、土師器、墨書土器、刻書土器、古代瓦、融着片 灰釉陶器、三又トチン、墨書土器、刻書土器、 山茶碗、古瀬戸(四耳壺)、中世瓦、土師器羽釜、青磁、白磁、古銭、鉄滓、常滑産甕	奈良時代後半から平安時代の陶器生産に関わる集落 鎌倉時代から室町時代の金属加工工房を伴う集落

文書番号	発掘届出(18埋セ第21号・2006.5.25)　通知(18教生第785号・2006.7.14) 終了届・保管証・発見届(18埋セ第53号・2006.10.13) 鑑定結果通知(18教生第1843号・2006.11.24) 発掘届出(19埋セ第4号・2007.4.12)　通知(19教生第187号・2007.4.25) 終了届・保管証・発見届(19埋セ第39号・2007.7.4) 鑑定結果通知(19教生第1331号・2007.9.4)

要約

薬師ヶ根遺跡は、境川右岸の丘陵端部に位置する奈良時代から平安時代を中心とする時期に営まれた集落遺跡である。当該期には、集落の端から谷地形にかけての凹地に、廃棄された多数の須恵器・灰釉陶器が集積出土する。これには、付近丘陵地帯の窯で生産されたものの出荷にあたり、選別を行ったものが多く含まれている。その中心は8世紀後半～9世紀後半である。また、墨書土器・刻書土器がみられるのも特徴である。これには付近を古代東海道が通過し、両村駅家が設置されたことと関係するとみられる。

また、鎌倉時代から室町時代にかけても、付近の窯で生産された山茶碗が搬入された場所と考えられる。さらに竪穴状遺構などからは鉄滓・北宋銭・土師器羽釜などが出土し、鍛冶工房の存在もうかがえる。古瀬戸四耳壺や中世瓦が出土する溝もあり、沓掛城築城以前の地域の中心であった可能性も考えられる。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 197 集

薬師ヶ根遺跡

2015 年 3 月 31 日

編集・発行　公益財団法人　愛知県教育・
スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　西濃印刷株式会社